

## 【要旨】

題名：新人薬剤師における骨粗鬆症関連情報の理解度調査

松谷 定<sup>1</sup>, 今野 章之<sup>1</sup>, 阿部 真也<sup>2</sup>, 松井 洸<sup>2</sup>, 山口 浩<sup>2</sup>, 吉町 昌子<sup>2</sup>, 野村 和彦<sup>2</sup>, 川崎 直人<sup>3</sup>  
(株式会社ツルハ<sup>1</sup>) (株式会社ツルハホールディングス<sup>2</sup>) (近畿大学薬学部<sup>3</sup>)

## 【目的】

我が国の骨粗鬆症患者数は約 1300 万人と推定されているが、骨密度の測定は有病者や要精検者に限られているため、若年者は骨粗鬆症対策に触れる機会が少ない。若年者を含めた幅広い世代へ骨粗鬆症対策に関する情報を啓発する必要があると考えられた。薬局薬剤師は若年者へ情報提供できる機会がある。しかし、新人薬剤師では十分な骨粗鬆症対策に関する情報を有しているか不明である。そこで、本研究では新人薬剤師における骨粗鬆症関連情報の理解度を調査した。

## 【方法】

2021 年 5 月、株式会社ツルハホールディングスの新人薬剤師研修を受講の 196 名を対象にアンケート調査を実施した(回収率:96.9%)。調査対象者は、薬剤師勤務歴 2 ヶ月以内と回答した 183 名(男性 66 名, 女性 117 名)とした。骨粗鬆症関連情報の理解度調査として、「骨粗鬆症」、「骨密度」、「YAM 値」、「T スコア」、「FRAX®(Fracture Risk Assessment Tool)」、「DXA 法」、「Z スコア」を調査対象項目とした。「自身の骨密度に関心がありますか」(以後、「自身の骨密度への関心」とする)の質問に「あり」と回答した者を「関心あり」群、「なし」「どちらでもない」と回答した者を「関心なし」群とした。統計解析には JMP ver.13 (SAS Institute Inc.)を用い、 $p < 0.05$  未満を有意差ありとした。また、本研究はツルハホールディングス学術研究発表審議会の承認を得て実施した(HD2020023)。

## 【結果】

調査対象項目を「説明できる」と回答した割合は、骨粗鬆症 95.1%、骨密度 82.0%、YAM 値 50.8%、T スコア 2.7%、FRAX®0.5%、DXA 法 23.0%、Z スコア 0.5%となった。各調査対象項目の説明可否の割合を「性別」で比較したが、有意差は確認できなかった。一方、各調査対象項目の説明可否の割合を「自身の骨密度への関心」で比較したところ、「骨密度」を「説明できる」と回答した者で「関心あり」の割合は 56.7%、「骨密度」を「説明できない」と回答した者で「関心あり」の割合は 81.8%となった( $p=0.0096$ )。

## 【考察】

「骨粗鬆症」は 95.1%が説明できることが明らかとなった。しかし、原発性骨粗鬆症の診断基準関連の「骨密度」、「YAM 値」、「T スコア」では説明できる割合にばらつきがあった。そのため、原発性骨粗鬆症診断基準の教育実施の必要性が示唆された。また、「骨密度」については「説明できる」と回答した群が「説明できない」と回答した群よりも、「自身の骨密度への関心」にて「関心あり」と回答した割合は有意に低かった。つまり、「骨密度」の理解度が上昇しても「自身の骨密度への関心」は上昇しない可能性が示唆された。